

# 食肉販売動向調査結果 （2026 年度上半期公表）

## ① 卸売業者 編

### 独立行政法人農畜産業振興機構

※ 当機構では、食肉の販売動向を把握するため、年に 2 回、主要な食肉の卸売業者および小売業者の協力を得て、食肉の取り扱いや販売見通しに関するアンケート調査を実施している。

今回、2025 年度下半期（2025 年 10 月～2026 年 3 月）の実績見込み（以下「実績」という。）と 2026 年度上半期（2026 年 4 月～9 月）の見通しなどを取りまとめたものについて公表する（2026 年 2 月時点）。

なお、本調査結果は機構の見解ではなく、調査先も一部の業者を対象としており、全体を代表するものではない。

#### 【ポイント】

- 卸売業者における 2025 年度下半期の販売状況（重量ベース）について  
牛肉全体では「同程度」が 50.0%と最も多い中、「減少」が「増加」を上回った。品目別に見ると、すべての区分では、「同程度」が最も多く、和牛は「小売向け需要の増加」などから「増加」が「減少」を上回った一方、乳用牛は「他畜種/品種との需要シフト」、輸入品（冷蔵・冷凍）は「相場高」などから「減少」が「増加」を上回った。豚肉全体では「同程度」が 50.0%と最も多い中、「増加」が「減少」を上回った。品目別に見ると、国産豚肉は「業務用需要の増加」などから「増加」が最も多かった。また、輸入品（冷蔵・冷凍）で「同程度」が最も多い中、輸入品（冷蔵）は「小売向け需要の増加」から「増加」が「減少」を上回った一方、輸入品（冷凍）は「相場高」から「減少」が「増加」を上回った。
- 卸売業者における今後 1 年間の輸入食肉の取扱見通し（重量ベース）について  
輸入牛肉全体では「同程度」が 70.0%で最も多かった。国別に見ても、「同程度」が最も多い中、豪州産で「小売向け需要の増加」、「外食向け需要の増加」、「相場安」などから「増加」が「減少」を上回った。一方、米国産は「相場高」で「減少」が「増加」を上回った。また、輸入豚肉全体では「同程度」が 6 割強で最も多かった。また、輸入豚肉全体で相場が上がっている状況などから、比較的安価なブラジル産は「増加」が過半数を超える中、スペインでのアフリカ豚熱発生が取扱見通し全体にも影響を与えているという意見などが挙げられた。
- 卸売業者における 2025 年度下半期の在庫量について  
牛肉・豚肉（冷蔵）は、おおむね計画通りかやや多い水準で、牛肉・豚肉（冷凍）はやや多い水準となった。

## 調査概要

1. 調査方法

アンケート

2. 調査対象者数、回収数及び回収率

右表のとおり

3. 調査期間

2026 年 2 月 2 日～20 日

(単位: 者)

	調査対象者数①	回収数②	回収率(%) ③=②/①
卸売業者			
牛肉	15	15	100
豚肉	14	14	100
小売業者			
量販店	20	20	100
食肉専門店	61	61	100

注1: 調査対象者は、当機構が実施する価格調査(仲間相場(卸売価格)および小売価格)の調査先であり、一部の業者を対象とし、全体を代表するものではない。

注2: 各調査結果は、回答の単純集計であり、取扱重量等による加重平均ではない。

## 目次

1. 食肉の取扱状況 .....	1～2 頁
2. 仕向け先別販売割合 .....	3～5 頁
3. 輸入食肉の販売見通し .....	6～9 頁
4. 在庫の状況 .....	10～13 頁

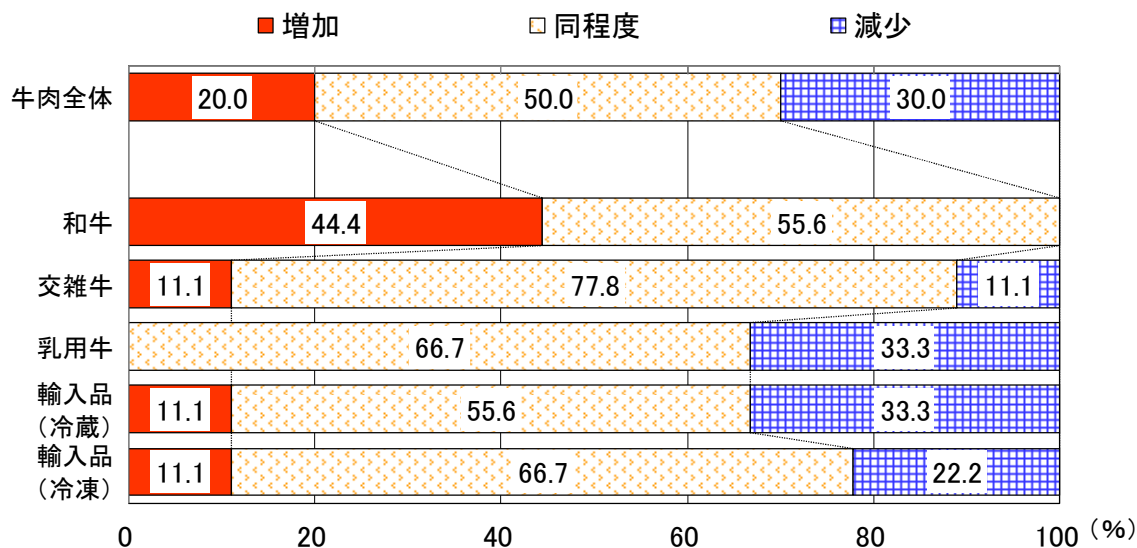
① 卸売業者 編

1.食肉の取扱状況

(1) 牛肉 ～牛肉全体、すべての区分で「同程度」が最多～

- 2025 年度下半期の卸売業者における牛肉の取扱状況（重量ベース）について、前期（2025 年度上半期）との比較で、**牛肉全体では「同程度」が 50.0%と最も多い中、「減少」が「増加」を 10.0 ポイント上回った。**
- 減少理由としては、「相場高」が最も多く、次いで「小売向け需要の減少」、「消費者の低価格志向」が挙げられた。
- 品目別に見ると、**すべての区分では、「同程度」が最も多い中、和牛は「増加」が 4 割以上を占めた一方で、乳用牛および輸入品（冷蔵・冷凍）は「減少」が「増加」を上回った。**なお、和牛は「減少」がゼロ、乳用牛は「増加」がゼロであった。
- 増加理由については、和牛は「小売向け需要の増加」が最も多く、次いで「外食向け需要の増加」、「他畜種/品種との需要シフト」、「補助事業の活用」が挙げられた。
- 一方、減少理由については、乳用牛は「他畜種/品種との需要シフト」、輸入品（冷蔵・冷凍）は「相場高」がそれぞれ最も多く挙げられた。

2025年度下半期における牛肉の取扱状況  
（2025年度上半期との比較）



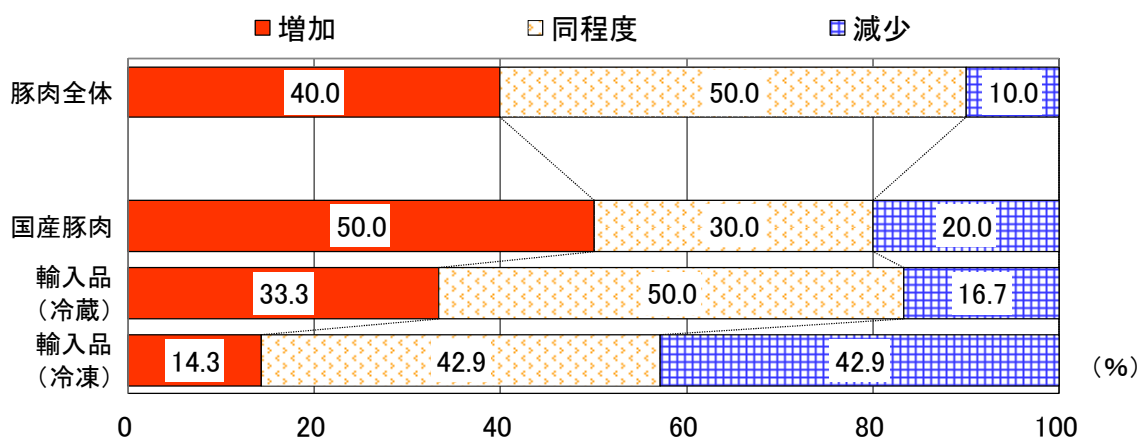
注1: データは、全回答社のうち、2024年度取扱量上位10社を対象に集計した結果である。  
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

（2）豚肉 ～豚肉全体は「同程度」、国産豚肉は「増加」が最多～

- 2025 年度下半期の卸売業者における豚肉の取扱状況（重量ベース）について、前期（2025 年度上半期）との比較で、**豚肉全体では「同程度」が 50.0%と最も多い中、「増加」が「減少」を 30.0 ポイント上回った。**
- 品目別に見ると、**国産豚肉は「増加」が最も多かった。また、輸入品（冷蔵）は「同程度」が最も多い中、「増加」が「減少」を上回り、輸入品（冷凍）は「同程度」と「減少」が同率であった。**
- 増加理由については、国産豚肉で「業務用需要の増加」、輸入品（冷蔵）で「小売向け需要の増加」が最も多く挙げられた。
- 輸入品（冷凍）の減少理由については、「相場高」が多く挙げられた。

2025年度下半期における豚肉の取扱状況  
（2025年度上半期との比較）



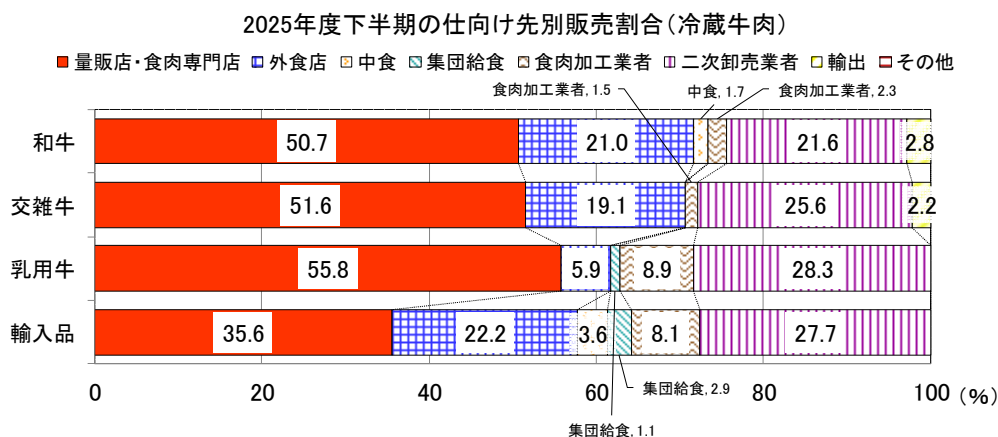
注1：データは、全回答社のうち、2024年度取扱量上位10社を対象に集計した結果である。  
注2：四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

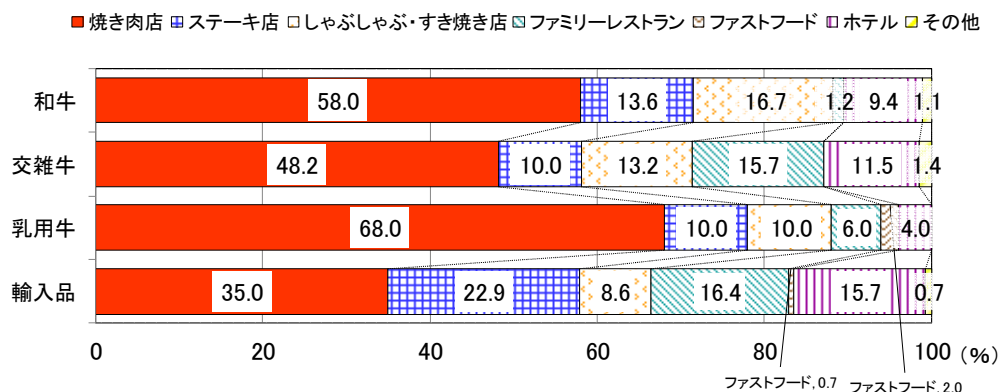
2.仕向け先別販売割合

(1) 牛肉（冷蔵） ～すべての区分で「量販店・食肉専門店」向けが最多～

- 2025 年度下半期の卸売業者における冷蔵牛肉の仕向け先別販売割合の実績（重量ベース）を見ると、**すべての区分で「量販店・食肉専門店」が最も多かった。**
- 「**外食店**」の内訳を見ると、**すべての区分で「焼き肉店」が最も多かった。**次位は、和牛で「しゃぶしゃぶ・すき焼き店」、交雑牛で「ファミリーレストラン」、乳用牛で「ステーキ店」および「しゃぶしゃぶ・すき焼き店」、輸入品で「ステーキ店」であった。
- 「食肉加工業者」の用途は、和牛で「ユッケ」、交雑牛で「ハンバーグ」、乳用牛で「ローストビーフ」、輸入品で「ハム・ソーセージ」などが挙げられた。
- なお、国産品における冷蔵品の構成比は、和牛が 82.8%、交雑牛が 87.9%、乳用牛が 66.6%であった。



<参考>外食店の内訳



注1: データは、全回答社のうち、2024年度取扱量上位10社を対象に集計した結果である。

注2: データは、各者の取扱割合の平均値である。

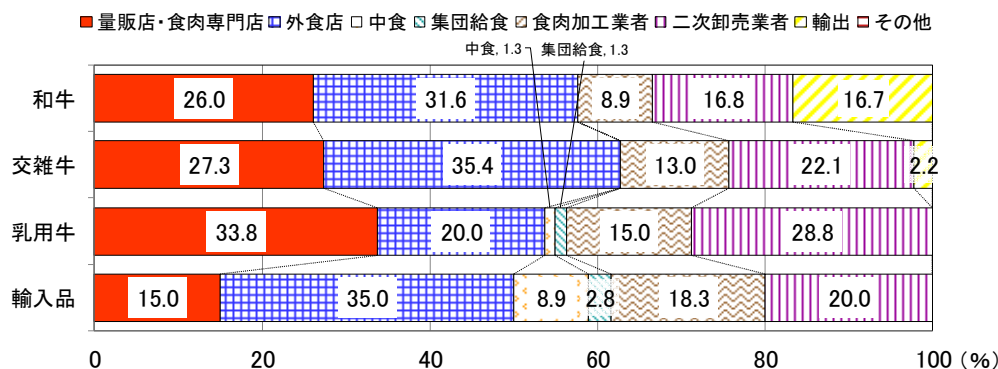
注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

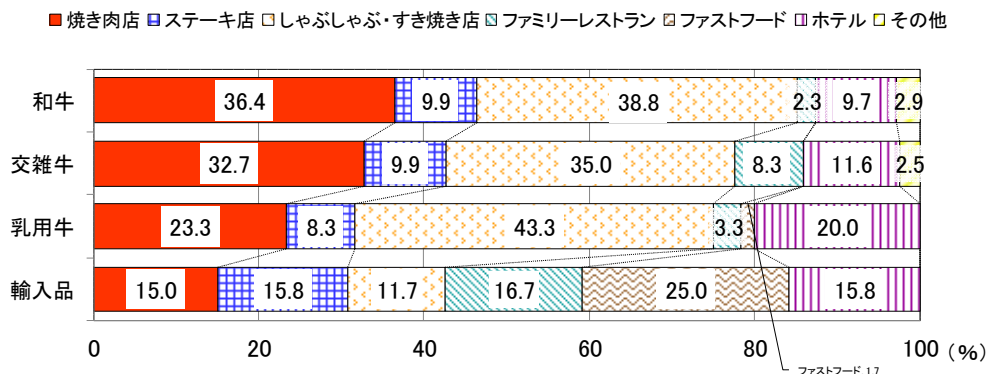
(2) 牛肉（冷凍） ～乳用牛を除き「外食店」向けが最多～

- 2025 年度下半期の卸売業者における冷凍牛肉の仕向け先別販売割合の実績（重量ベース）を見ると、和牛、交雑牛、輸入品で「外食店」、乳用牛で「量販店・食肉専門店」が最も多かった。
- 「外食店」の内訳は、和牛、交雑牛、乳用牛で「しゃぶしゃぶ・すき焼き店」、輸入品で「ファストフード」がそれぞれ最も多かった。次位は和牛、交雑牛、乳用牛で「焼き肉店」で、いずれも上位 2 つで過半数を超えている。一方、輸入品の次位は「ファミリーレストラン」で、上位 2 つで 4 割台となっており、他の区分と比較して、仕向け先の割合が分散されている。
- 「食肉加工業者」の用途は、乳用牛を除いて「ハンバーグ」が最も多く、乳用牛では「ローストビーフ」や「スープ」が挙げられた。
- なお、国産品における冷凍品の構成比は、和牛が 17.2%、交雑牛が 12.1%、乳用牛が 33.4%であった。

2025年度下半期の仕向け先別販売割合（冷凍牛肉）



<参考> 外食店の内訳

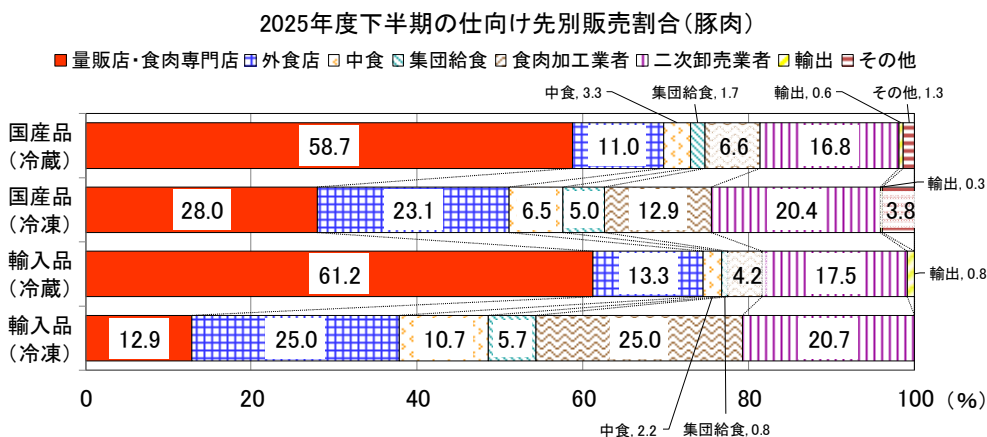


注1: データは、全回答社のうち、2024年度取扱量上位10社を対象に集計した結果である。  
 注2: データは、各者の取扱割合の平均値である。  
 注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

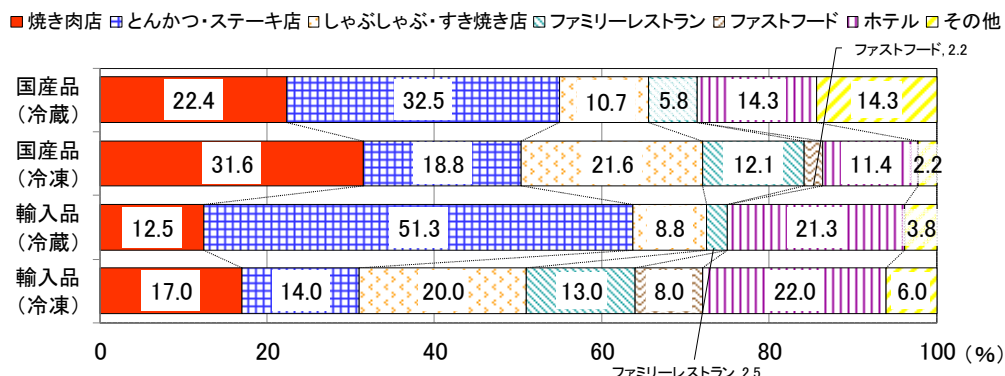
① 卸売業者 編

(3) 豚肉 ～輸入品（冷凍）を除き、「量販店・食肉専門店」向けが最多～

- 2025 年度下半期の卸売業者における豚肉の仕向け先別販売割合の実績（重量ベース）を見ると、輸入品（冷凍）を除いたすべての区分で「量販店・食肉専門店」が最も多かった。
- 輸入品（冷凍）については、「外食店」および「食肉加工業者」が **25.0%**と最も多く、次いで「二次卸売業者」、「量販店・食肉専門店」と続いており、他の区分と比較して、仕向け先の割合が分散されている。
- 「外食店」の内訳を見ると、国産品（冷蔵）および輸入品（冷蔵）は「とんかつ・ステーキ店」、国産品（冷凍）は「焼き肉店」、輸入品（冷凍）は「ホテル」が最も多かった。輸入品（冷凍）は「ホテル」が 22.0%と最も多かったものの、他の区分と比較して、仕向け先の割合が分散されている。
- 「食肉加工業者」の用途は、すべての区分で「ハム・ソーセージ」が最も多かった。その他の用途として、「タレ漬け商品」や「ミールキット」などが挙げられた。
- なお、国産品における冷蔵と冷凍の取扱割合は、冷蔵が 66.1%、冷凍が 33.9%となった。



<参考> 外食店の内訳



注1: データは、全回答社のうち、2024年度取扱量上位10社を対象に集計した結果である。

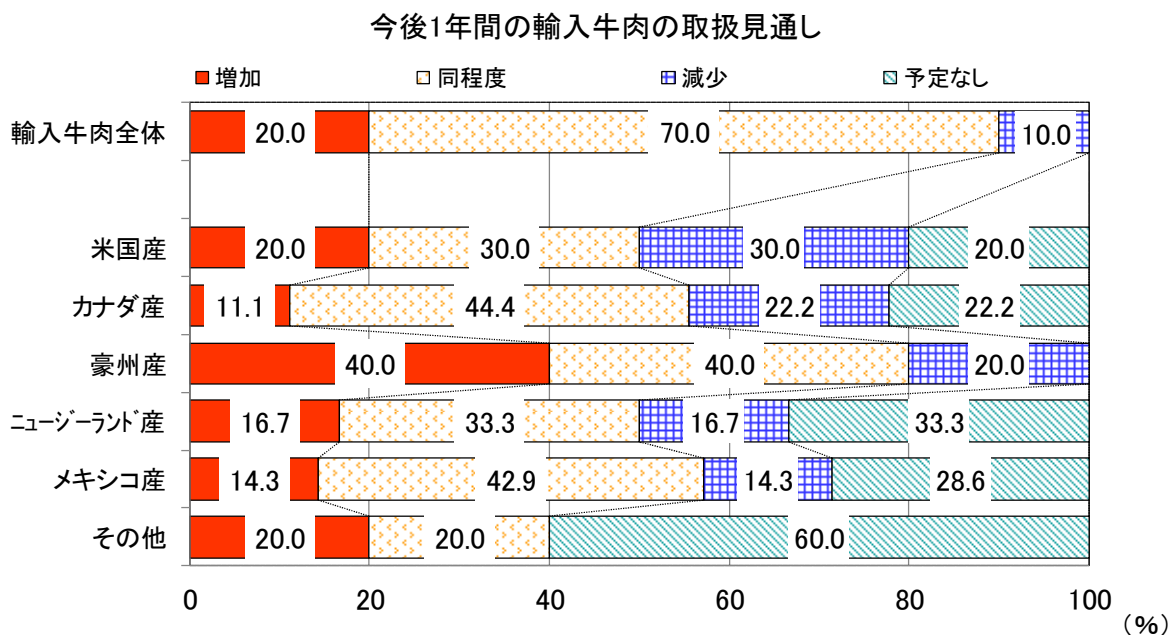
注2: データは、各者の取扱割合の平均値である。

注3: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

### 3. 輸入食肉の販売見通し

#### （1）牛肉 ①取扱見通し ～輸入牛肉全体では「同程度」が最多～

- 今後1年間の卸売業者における輸入牛肉の取扱見通し（重量ベース）については、**輸入牛肉全体では「同程度」が70.0%で最も多い中、「増加」が20.0%、「減少」が10.0%であった。**
- 国別に見ると、**すべての区分で「同程度」が最も多かった（米国産は「減少」、豪州産およびその他は「増加」と同率）。**なお、豪州産は「増加」が「減少」を上回り、米国産およびカナダ産は「減少」が「増加」を上回った。（それぞれ「予定なし」を除く）。
- 豪州産の「増加」の理由としては、「小売向け需要の増加」、「外食向け需要の増加」、「相場安」が挙げられた。
- 一方、米国産の「減少」の理由としては、「相場高」が多く挙げられた。



注1: データは、全回答社のうち、2024年度取扱量上位10社を対象に集計した結果である。

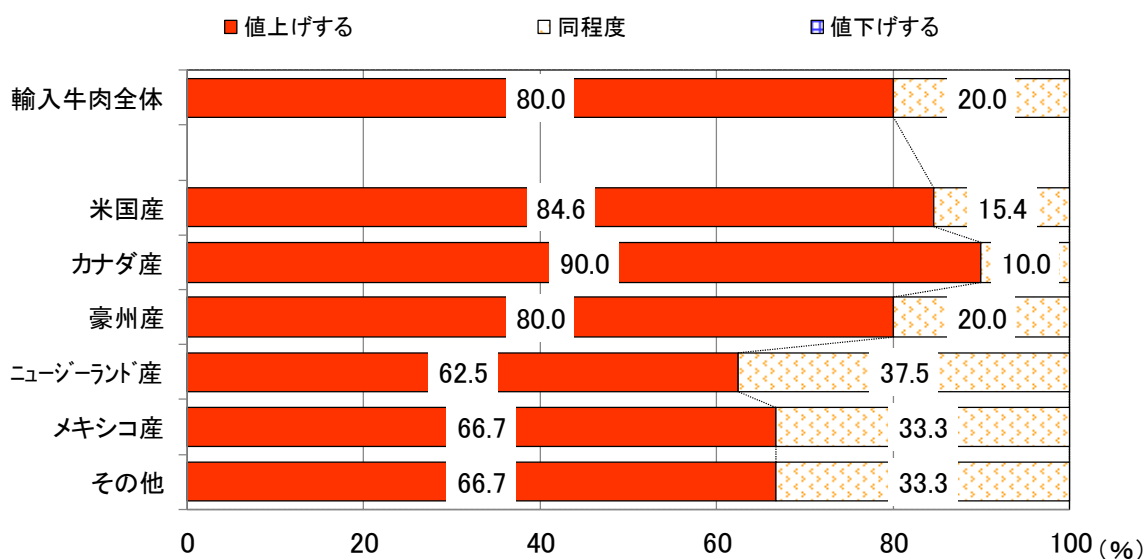
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

**（1）牛肉 ②販売価格見通し ～輸入牛肉全体では 8 割が「値上げ」、  
国別でもすべての国で「値上げ」が最多～**

- 今後 1 年間の卸売業者における輸入牛肉の販売価格見通しについては、**輸入牛肉全体では「値上げする」が 80.0%と最も多く、前期から 6.7 ポイント上昇した。**
- 国別に見ると、「値上げする」が、カナダ産は 9 割を占め、米国産および豪州産においても 8 割以上を占めた。
- 値上げの理由としては、すべての区分において「相場高」が多く挙げられた。

今後1年間の輸入牛肉の販売価格見通し

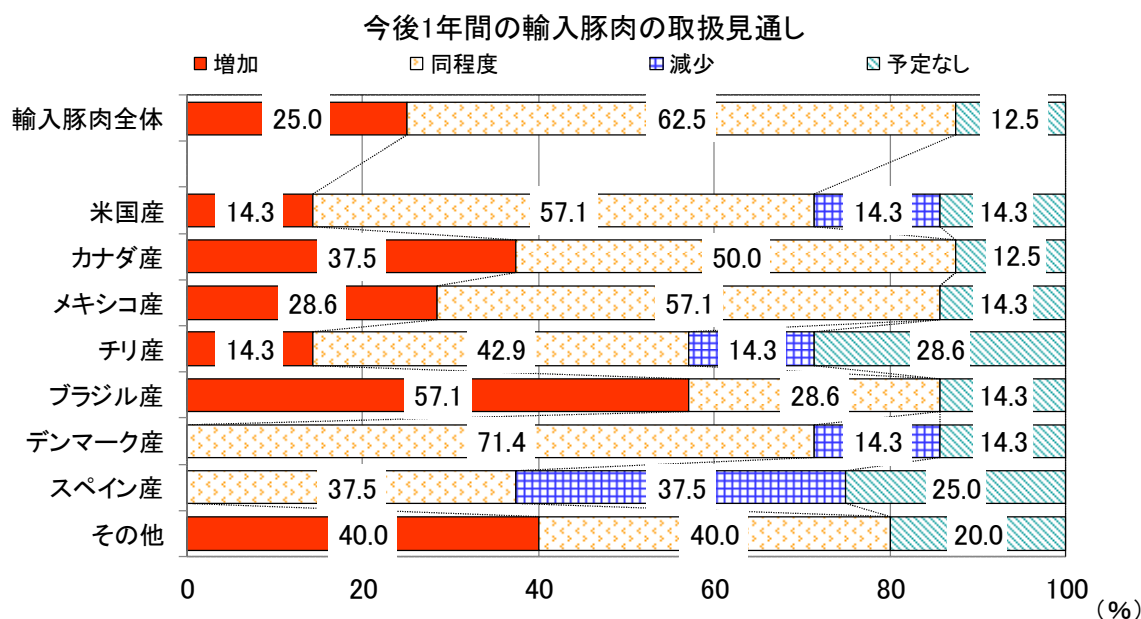


注：四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

(2) 豚肉 ①取扱見通し ～輸入豚肉全体では「同程度」の見通しが 6 割強～

- 今後 1 年間の卸売業者における輸入豚肉の取扱見通し（重量ベース）については、**輸入豚肉全体**では「同程度」が 62.5%で最も多い中、「増加」が 25.0%、「減少」がゼロであった。
- 国別に見ると、**ブラジル産を除いたすべての国で「同程度」が多い中（スペイン産は「減少」、その他は「増加」と同率）**、カナダ産、メキシコ産、ブラジル産、その他は「減少」がゼロの一方、**デンマーク産およびスペイン産は「増加」がゼロであった**。なお、**ブラジル産は「増加」が最も多かった**（それぞれ「予定なし」を除く）。
- 輸入豚肉全体の「増加」の理由としては、「小売向け需要の増加」および「業務用需要の増加」が挙げられた。また、輸入豚肉全体で相場が上がっている状況などから、比較的安価なブラジル産は「増加」が過半数を超える中、スペインでのアフリカ豚熱発生が取扱見通し全体にも影響を与えているという意見などが挙げられた。



注1: データは、全回答社のうち、2024年度取扱量上位10社を対象に集計した結果である。

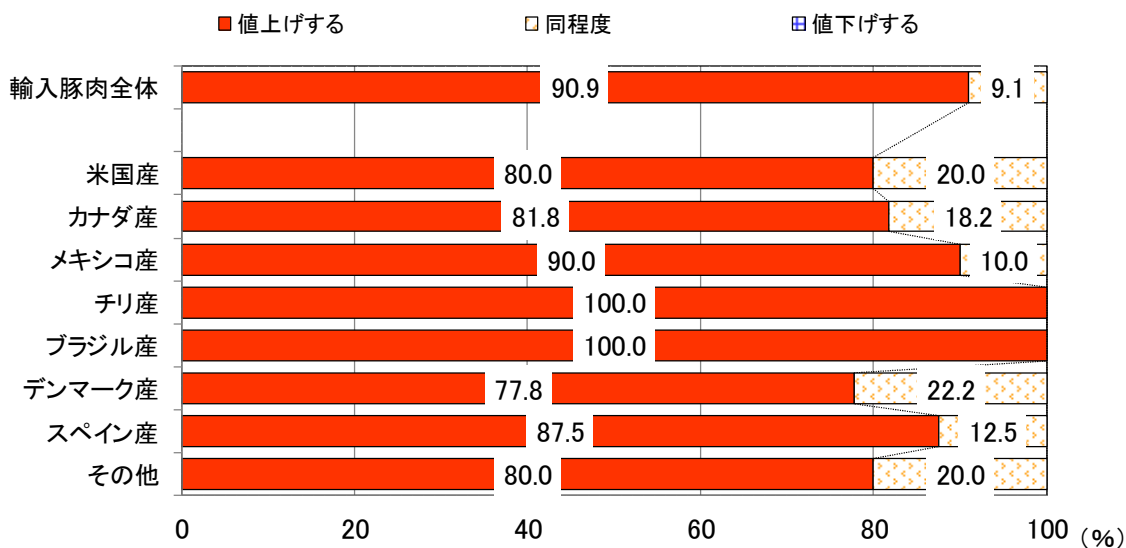
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

(2) 豚肉 ②販売価格見通し ～輸入豚肉全体では「値上げする」が9割強～

- 今後1年間の卸売業者における輸入豚肉の販売価格見通しについては、**輸入豚肉全体では「値上げする」が90.9%で最も多かった。また、「値下げする」はゼロであった。**
- 国別で見ても、**すべての国で「値上げする」が最も多く、中でもチリ産およびブラジル産は100%であった。**
- 値上げの理由としては、「相場高」が最も多く挙げられた。また、その他の回答として、販売価格においても、「アフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止」が挙げられた。

今後1年間の輸入豚肉の販売価格見通し

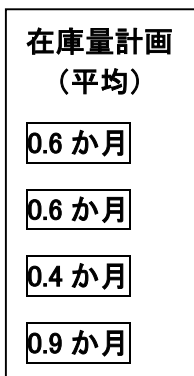


① 卸売業者 編

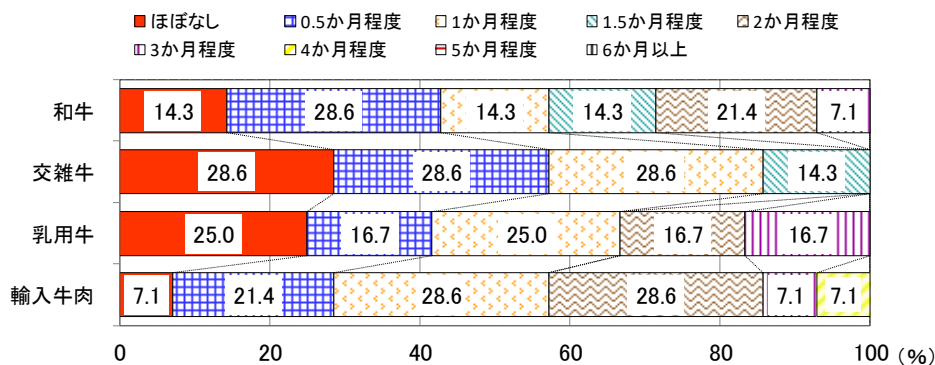
4. 在庫の状況

(1) 牛肉（冷蔵） ～在庫水準は計画と比べて同程度からやや多い水準～

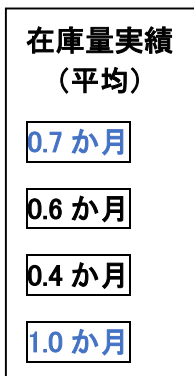
- 在庫量の実績は、計画と比べて和牛および輸入牛肉で多い傾向が見られる。
- 計画と比べて在庫が増加した要因については、和牛で「**外食向け需要の減少**」および「**相場高**」が挙げられ、輸入牛肉で「**外食向け需要の減少**」が最も多く挙げられた。



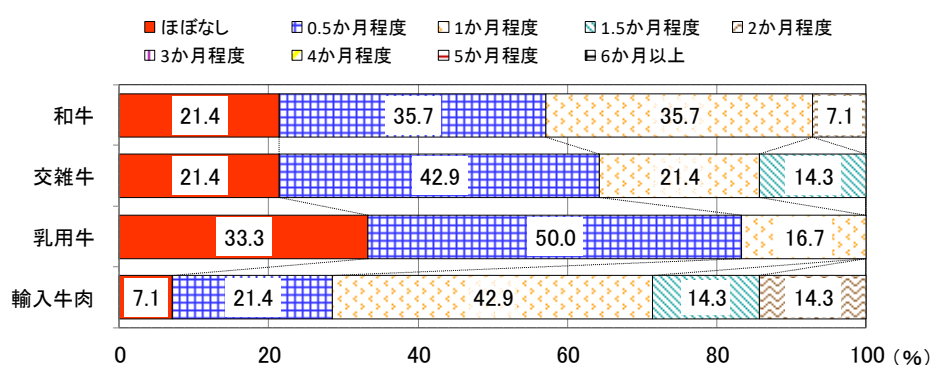
2025年度下半期の月間取扱量に対する在庫量の計画（冷蔵牛肉）



注1: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。  
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。



2025年度下半期の月間取扱量に対する在庫量の実績（冷蔵牛肉）



注1: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。  
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

(2) 牛肉（冷凍） ～在庫水準は計画と比べてやや多い水準～

○在庫量の実績は、計画と比べてすべての区分で多い傾向が見られる。  
 ○計画に比べて在庫が増加した要因については、和牛は「小売向け需要の減少」、交雑牛は「小売向け需要の減少」および「外食向け需要の減少」、乳用牛は「小売向け需要の減少」および「相場高」、輸入牛肉は「相場高」などがそれぞれ挙げられた。

**在庫量計画  
(平均)**

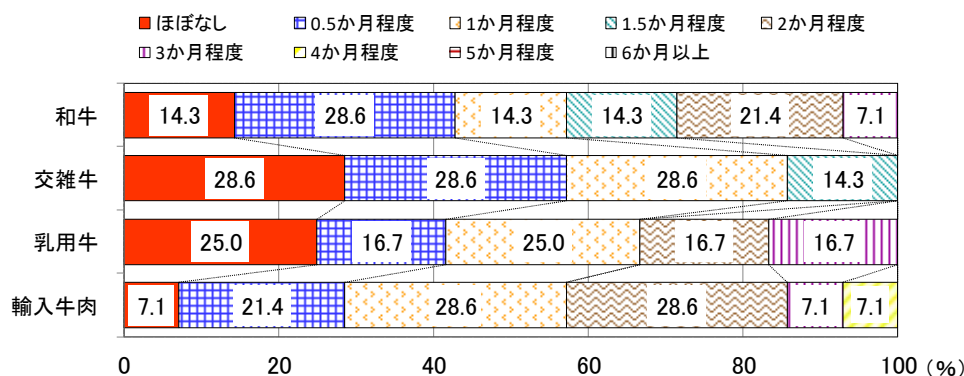
1.1 か月

0.6 か月

1.2 か月

1.5 か月

2025年度下半期の月間取扱量に対する在庫量の計画（冷凍牛肉）



注1: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。  
 注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

**在庫量実績  
(平均)**

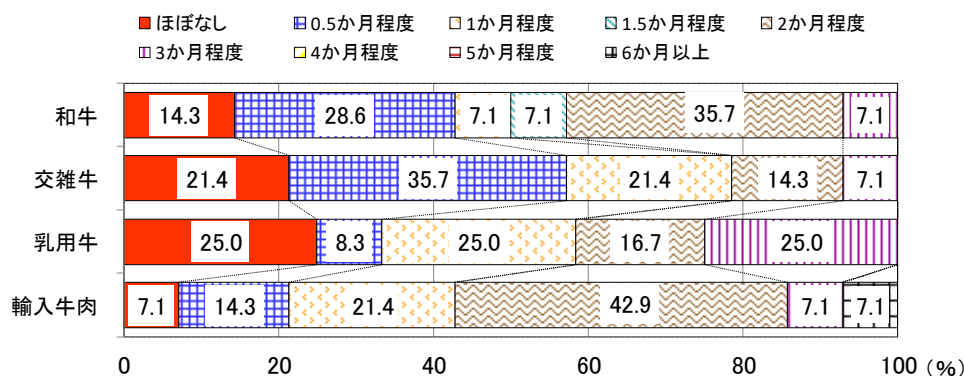
1.3 か月

0.9 か月

1.4 か月

1.8 か月

2025年度下半期の月間取扱量に対する在庫量の実績（冷凍牛肉）



注1: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。  
 注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

**（3）豚肉（冷蔵） ～在庫水準は計画と比べておおむね同程度～**

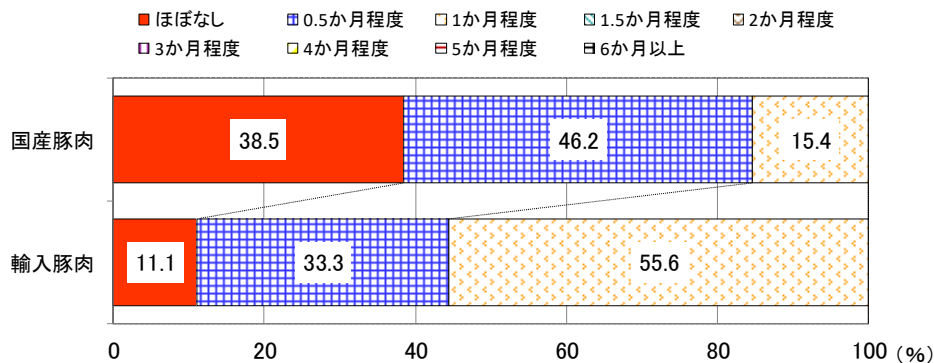
○在庫量の実績は、国産・輸入豚肉ともに、計画と比べて変動が少なく、**全体としてはおおむね同程度であった。**

**在庫量計画  
（平均）**

**0.4 か月**

**0.7 か月**

2025年度下半期の月間取扱量に対する在庫量の計画（冷蔵豚肉）



注1: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

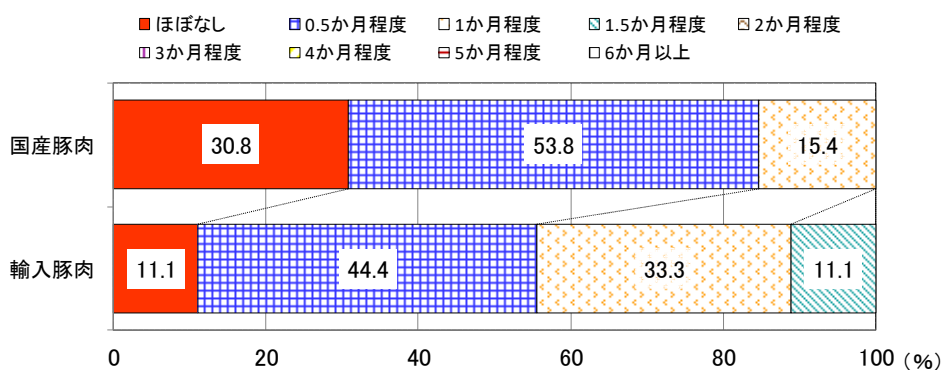
注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

**在庫量実績  
（平均）**

**0.4 か月**

**0.7 か月**

2025年度下半期の月間取扱量に対する在庫量の実績（冷蔵豚肉）



注1: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 卸売業者 編

（4）豚肉（冷凍） ～在庫水準は計画と比べて輸入豚肉では多い傾向～

- 在庫量の実績は、輸入豚肉で多い傾向が見られる。
- 輸入豚肉が計画に比べて在庫が増加した要因については、「相場高」が最も多く、次いで「外食向け需要の減少」、「輸入量の増加」などが挙げられた。

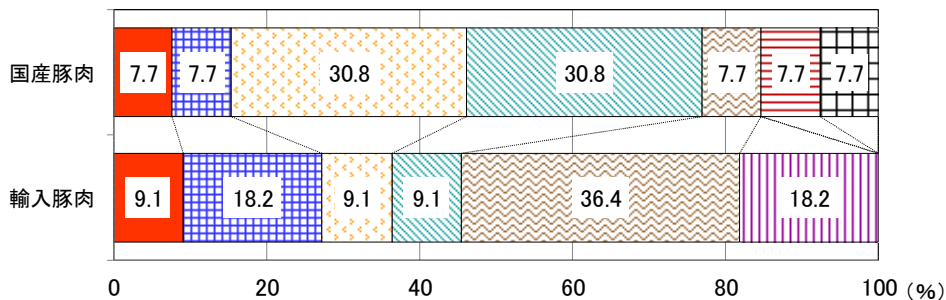
**在庫量計画  
（平均）**

**1.8 か月**

**1.6 か月**

2025年度下半期の月間取扱量に対する在庫量の計画（冷凍豚肉）

■ ほぼなし ■ 0.5か月程度 ■ 1か月程度 ■ 1.5か月程度 ■ 2か月程度  
■ 3か月程度 ■ 4か月程度 ■ 5か月程度 ■ 6か月以上



注1: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

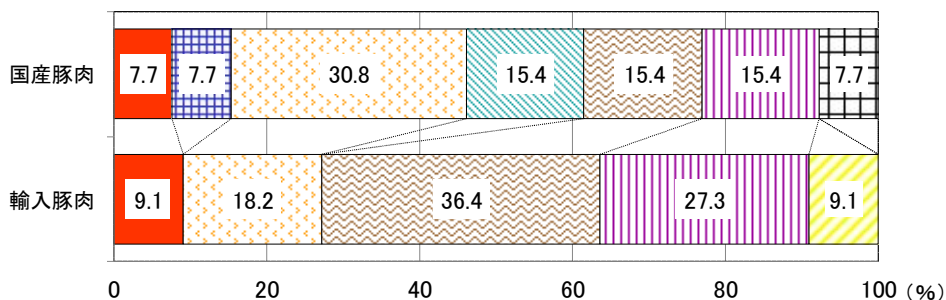
**在庫量実績  
（平均）**

**1.8 か月**

**2.1 か月**

2025年度下半期の月間取扱量に対する在庫量の実績（冷凍豚肉）

■ ほぼなし ■ 0.5か月程度 ■ 1か月程度 ■ 1.5か月程度 ■ 2か月程度  
■ 3か月程度 ■ 4か月程度 ■ 5か月程度 ■ 6か月以上



注1: 左記の表はほぼなしは0、0.5か月程度は0.5、1か月程度は1、1.5か月程度は1.5、2か月程度は2、3か月程度は3、4か月程度は4、5か月程度は5、6か月以上は6として算出した。

注2: 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。